

私は大鰐町で生を受けて、弘前高校卒業後、上京してからはや30年近くになる。だが、故郷の風景は今も色あせず、その匂いは脳裏から消えることはない。もちろん津軽弁は、しかるべき相手さえいればいつでも再生できる。故郷を思う時、日常で忘れ去られている自分の心の根っこの部分が蘇ってくる気がする。その地元の新聞社

大鰐町出身、弘前高校卒。東京大学医学部卒。北青山Dクリニック院長。東京都在住

### 阿保 義久①



い。すなわち綴りやす  
神々しい地域の二つだ  
々はそこまで買われた  
いのは医療に関わる話  
ということだ。さすが  
いとわは思っていない。  
ということになる。そ  
に国内を隅から隅まで  
訪れたことは無いの  
いないと感ずること  
で、断定的なことは言  
はるが、それがこの  
が、今回は最初の寄稿  
えないが、これだけ空  
地域の稀有な魅力の一  
なので日々、胸中に秘  
気が奇麗で、水がうま  
つでもあり、それが私  
めている故郷への思い  
く、この上ない食材に  
のプライドを根っこの  
を綴りたい。

明瞭で、毎年決まっ  
るかもしれない。  
芯まで身が引き締め  
られるほどの厳しい冬  
がふりに帰省を繰り返  
す

在京の時間が在郷の  
訪れる地域はないだ  
う。日常の中で見る  
度として感じたもの  
であ  
それと比べてはるかに  
長くなってしまった  
に異なる表情を見せ  
る、ずっと在郷し続  
け  
が、青森出身である  
岩木山、遠くに凛と  
連  
ていたらその有難  
みに  
あることは私のプ  
ライ  
は、奥に進めば文字  
通  
う。また、傍若無人  
な  
ドを支える揺るぎな  
い奥入瀬の清流が待  
ち  
構えている。春の桜  
や  
学業において私は東  
京  
こ数年は、脳梗塞を患  
夏祭りの祭りに、そ  
して、国  
の大学でこの人  
には勝  
った母親が地元の施設  
内一の産出を誇る甘  
い  
負を挑めないと感じ  
た  
で大変お世話になっ  
て  
果実などを忘れても  
、  
人はいない。しかし弘  
前  
いることもあり、とん  
その迫力が失われない  
前  
での高校時代は、こ  
ほ  
返りではあるが、少  
ほ  
ど、第一級の素材に  
いつ  
には絶対勝てない  
な  
くとも上京直後には  
満ちあふれている地  
域  
と思つたことが多々  
あ  
り得なかつた頻度で  
だ。  
売り込めば、相当  
な  
る。故郷は私という  
存  
在の根っこである。

その度を感じるの  
は  
富に持つている。  
ただ、そこに住む人  
月26日付の予定)

## 望遠郷

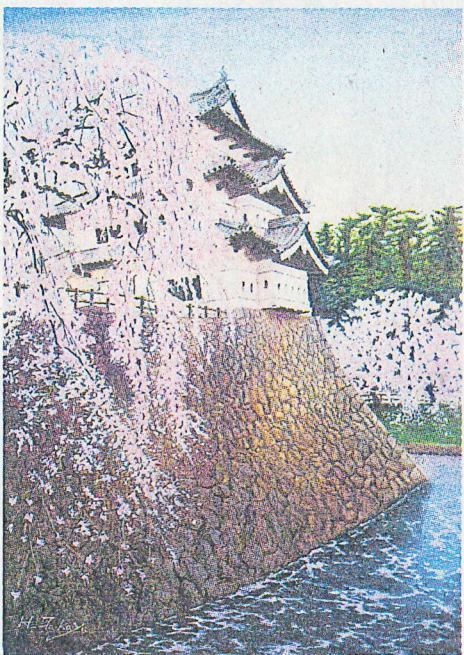
Soul of Tsugaru



から寄稿を依頼され  
た。心が躍らないわけ  
がない。自分の徒然な  
る  
思いを数回連載し  
て  
くれるという。心を  
込  
めて筆跡を残した  
い。

とは言え、私の日々  
の生活は周囲が期待す  
る  
ほどと波乱含みではな  
い。生活のほとんどは  
仕事に明け暮れる単調  
な  
もので、そこから引  
き  
出し得る徒然は、現  
在  
専心していることが  
主  
となりざるを得な

## 根っこ



挿絵・高谷 初男 (弘前市)